

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
404	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Histological versus clinical cirrhosis in chronic hepatitis C: does race/ethnicity really matter? C型慢性肝炎における組織学的肝硬変と臨床上的肝硬変：人種/民族は本当に重要か？	
<b>執筆者</b>	
Kohla M, Iwata S, Ea R, Keyhan S, Taylor R, Yu MC, Groshen S, Bonacini M.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Dig Dis Sci. 2012 Mar;57(3):771-6.	
<b>キーワード</b>	
慢性 C 型肝炎、肝硬変、組織学的肝硬変、臨床的肝硬変	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的：</b> 多民族の患者のコホートで慢性C型肝炎（CHC）の組織学的および臨床的特徴を比較する。</p> <p><b>方法：</b> 1999年から2005年までにCHC患者として電子医療登録された患者を後ろ向きに評価した。 生検した際のMETAVIR線維化スコアが高得点の時、組織学的肝硬変として定義した。静脈瘤、腹水、または脾腫のいずれかがあった時、臨床的肝硬変と定義した。この組織学的もしくは臨床的肝硬変があった時、肝硬変と定義した。カイ二乗検定、t検定、およびロジスティック回帰法を用いてデータを分析した。</p> <p><b>結果：</b> 692人の患者を4つの人種群：292人の白人（C）、145人のヒスパニック（H）、121人のアフリカ系アメリカ人（AA）、および134人のアジア人（As）に分類した。AA（54歳）とAs（53歳）の年齢の中央値はC（52歳）、またはH（50歳）（<math>p &lt; 0.05</math>）の年齢の中央値より高かった。H患者は、AAおよびC(42-44%)患者に比べてアルコール中毒者(60%)の割合が高かった。(14%;<math>p &lt; 0.0001</math>)。Body Mass Index (BMI) は、アジア人で他のすべての人種のグループに比べて有意に低かった（<math>P &lt; 0.0001</math>）。メタボリックシンドロームの割合はAs患者の28%からH患者の72%まで、一般的に普及していた。肝硬変はH患者で53%、C患者で35%、As患者で29%、AA患者で19%であった。多変量解析では、アルコールの乱用、BMI、糖尿病（DM）、年齢のみが有意に肝硬変と関連していた（<math>P = 0.08</math>）。組織学的もしくは臨床上的肝硬変がある率はAAでより少ない傾向にあった(<math>p = 0.08</math>)。</p> <p><b>結論：</b> 組織学的肝硬変のみを評価すると、肝硬変は著しく過小評価される。我々のコホート研究では、飲酒とメタボリックシンドロームを考慮した際、CHCの重症度は明らかに人種の影響を受けなかった。ただし、アフリカ系アメリカ人の肝硬変の割合はほかの人種より低い傾向にはあった。</p>	